

B 方式 (n=24)	第 1 回		第 3 回	
	M	S・D	M	S・D
事前	52・50	15・66	43・89	20・08
事後	55・28	18・60	47・22	18・03
相関係数	r = 0.971		r = 0.761	
分散の検定	$T_0 = 3.470$ $> T_{0.01}$		$T_0 = 0.797$ $< T_{0.01}$	
平均の検定	$T_0 = 2.638$ $< T_{0.01}$		$T_0 = 1.200$ $< T_{0.01}$	

○事後テストAB2方式の検定

(n=24)	1回→2回		2回→3回		3回→4回	
	M	S・D	M	S・D	M	S・D
B方式	60・83	18・88	60・83	18・88	43・44	15・75
A方式	55・28	18・60	47・22	18・03	47・22	18・03
相関係数	r = 0.259		r = 0.472		r = 0.475	

※ 事後テストの比較では、有効基準 $r = 0.65$ 未満で、それ程高い相関がないので、「相関する場合でない検定」によることにした。

区分	1回→2回	2回→3回	3回→4回
分散の検定	$F_0 = 1.03$ $< F_{0.05} = 2.01$	$F_0 = 1.10$ $< F_{0.05}$	$F_0 = 1.31$ $< F_{0.05}$
平均の検定	$T_0 = 1.00$ $< T_{0.05} = 1.96$	$T_0 = 2.50$ $> T_{0.05}$	$T_0 = 0.78$ $< T_{0.05}$

以上の検定結果から、事前事後テストの検定では、有意水準1%で、第4回目(A方式)に、事後テストAB二方式の検定では、有意水準5%で、「2回→3回」に、それぞれ有意差が認められる。しかし、変容因子としての認知・心情についての等質的な条件が、適切にとらえ得るかどうかは、これからの研究をまつほかはなく、従って、検定結果の解釈については、他の方法による裏付けが、必要であろう。

① A・B方式の授業例②・③の「発言」から

A方式 (例④)	生徒の 発言	27回	教師の 発言	10回	基本 発問	8回
B方式 (例③)	発言	19回	発言	18回	発問	5回

「発言の数」については、多いことが、それだけで、「多面的」な考えをしているとはいえないが、多くの場合、いろいろな視野に立って話し合う場合は、それだけ発言も多い。この場合(A方式の授業の「教師の発言と基本発問」に対する「生徒の発言の数」の比率から)も、その現われと見られる。

② 事例例「買い食い」についての調査結果から

時期	判断	よ			視野(理由)
		よい	よく ない	条件に よる	
事前(S50. 6)		9人	16人	0人	16(種類)
事後(S50. 11)		4人	15人	6人	27(種類)

「買い食い」から派生する問題(「金銭のムダ使い」「金銭の貸借」「夕食への影響」など、基本的な生活習慣)から、研究主題のねらいとする授業効果への期待が、表中の事前と事後の変化に現われたと評価したい。勿論、A方式の効果だけによるものとは言い切れないが、内容的に見ると、価値的志向性の高まり、「よい(5人減)」、論理性・創造性の深まり(条件付「6人増」)、視野の広がり(理由「11種類増」)など、顕著な変化が見られた。

(3) 結論

- ① 検定および諸考察から
 - ⑦ 授業の事前および事後調査結果の検定
 - ④ 検証授業およびその発言数の考察
 - ⑨ 事例例「買い食い」の事前事後調査結果の考察
- 以上の内容から、⑦の検定の裏付けとして、④・⑨の考察を試みたとき、判断の基準となる例①の3領域において、たしかに、変容を認め得るとした。

② 結論

①から、「道徳の時間『主題のねらいとする価値を探究する中で、資料に含まれる自己のよさに気づき、主題に関する価値を正しく認識することによって、主題のねらいとする価値がとらえられ、より広く、よりたしかな道徳性が養われ、総合的な判断力が伸びる』といえる。」

5. 反省と問題点

(1) 計画についての反省

- ① 学級担任の協力を効果的に得るためには、「研究の趣旨・手順・日程・準備」についての共通理解と「分担作業のたしかめ」が、大切であった。
- ② 研究主題および研究仮説の「検証性」は、やはり、「より具体的に、生徒の実態を分析した評定尺度の改善研究」が必要であった。

(2) 授業についての反省

- ① 生徒の実態をよりよく吟味し、「[思考の展開や深まりを助ける)予想反応]を設定すべきだった。
- ② 検証授業は、ねらいの内容を明確にした記録の構想を、更に、検討し、具体化する必要があった。

(3) (1)と(2)の反省を、今後の問題点として、とらえるとともに、特に、新資料の解釈とそれに基づく仮説検定の解釈など、妥当性において、問題点を残した。

6. 文献

- (1) ① 道徳教育の研究(自由書房) ② 中学道徳の主題構想と授業(明治図書) ③ その他
- (2) ① 教育研究法序説(福島県教育センター) ② その他「講座資料」(福島県教育センター)